

## 第二部

# 古代島根の新生、 卑弥呼の鏡と 四角い古墳

一九七二年夏、大原郡加茂町神原神社の境内から、一枚の鏡が出土した。「三角縁神獸鏡」と呼ばれる青銅製の鏡であった。この鏡に記された「景初三年」（中国の年号・西暦二九九年）の文字。この年、『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の女王・卑弥呼は、魏 現在の中国（の皇帝から金印とともに二〇枚の鏡をもらっている。神原神社古墳から出土した鏡こそ、卑弥呼の鏡の一枚なのだろうか。もしそうだとしたら、なぜ卑弥呼の鏡が加茂町にあったのか。このころ突如として、近畿地方を中心に全国各地に築かれていった巨大な古墳。世はすでに「古墳の時代」に移っていた。この時代の主役はここにあったのか。

「一枚の鏡、卑弥呼の鏡」には、新たな古代島根の世界がどのように映し出されたのであろうか。

\* 絵は神原神社古墳出土「三角縁神獸鏡」

